

スクッピーだより

【発行】調布市子ども発達センター 〒182-0032 東京都調布市西町290-49
TEL/042-486-1190 E-mail/ ayumi@w2.city.chofu.tokyo.jp

【平成29年度号】

「スクッピー」とは…
発達センターの愛称です。

子どもたちがすすくと
成長するよにという願いが
こめられています。

ご あ い さ つ

はじめまして、4月から子ども発達センター長に就任しました
岡田と申します。

センターでは、一人ひとりに必要な療育などを通じ、スタッフ
一同お子さんの健やかな成長を願い毎日奔走しています。

これからも、お子さんそして保護者のみなさまに笑顔でお越し
いただける“スクッピー”であり続けるよう努めてまいります。
どうぞよろしくお願ひいたします。

子ども発達センター長 岡田 理津子



子どもたちが、初夏の日差しのようなきらきらの笑顔でバスを降りる
ところから、あゆみの1日が始まります。

今日はどんな遊びをするのかな？ 子どもたちの興味は無限大です。
前庭での外遊び、時にはバスで野川公園に向かい、自然いっぱいの中を
たくさん歩きます。片栗粉遊びで、頭の上から足の先まで真っ白になる
こともあります。

毎日の‘遊び’の中で「楽しい！面白い！気持ちいい！」といっぱい
感じてもらえるように、そしてご家族の方々にも心地よい場所と感じて
いただけるよう、職員一同笑顔で頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

通園事業『あゆみ』園長 安藤 薫



私は、発達センターのイメージキャラクターです。
調布名物のだるまさんに、手足がついて、
ついでに耳まではえてきた、うさぎだるまです。
いつもみなさんのそばに寄り添い、
優しく見守っています。どうぞ、よろしく！





* 専門職員の紹介 *



センターでは、様々な職種の職員がお子さん・保護者の方への支援を行っています。今回は言語聴覚士、心理士、作業療法士、理学療法士について紹介します。

言語聴覚士 (ST = Speech-Language-Hearing Therapist)

心理士



保護者の方からは、「ことばが遅い」「ことばの理解に問題がある」「どもる」といった言語面や、「コミュニケーションが一方的」「集団行動がとれない」「友達と遊べない」といった対人・コミュニケーション面について、その他「耳の聞こえが心配」「こだわりが強い」「落ち着きがない」などのご相談があります。

言語聴覚士、心理士は、お子さんの発達を総合的にとらえ、お子さんの得意な部分をさらにのばし、苦手な部分の発達を補って伸ばすような指導を行います。保護者の方と共に、お子さんへの適切な関わり方を考えます。お子さんの自主性、興味を尊重しながら楽しく指導を行うのがセンターの基本姿勢です。

【通園事業】クラス支援と個別指導。

【発達支援事業】1歳児グループ、2歳児グループ、午前と午後の幼児グループ、言語・心理グループ、言語・心理個別を担当しています。

作業療法士 (OT = Occupational Therapist)

「作業療法」の名称は、英語の「Occupation」ということばからきています。「Occupation」にはその人にとっての“楽しみ”や“生活の一部”など“有意義に時間を費やす”という意味が含まれています。子どもたちにとって“意味のある時間の費やし方”といえば、やはり「遊び」です。作業療法士は、「遊び」の中にあるさまざまな要素を考えながら、子どもたちが“新しい発見をして、おもしろくて、うまくいて、もっとやりたくなる！”を実践することで、運動機能や活動能力、適応能力や社会的能力などの育ちを支援します。

また、子どもたちの日常生活動作（食事、排泄、入浴、整容など）についても注目し、快適な生活のために一緒に考えていきます。

【通園事業】クラス支援、OT活動（遊具を使って体の動かし方などを支援しています）。

【発達支援事業】幼児グループ、作業療法、レインボーグループ、運動療法を担当しています。

理学療法士 (PT = Physical Therapist)

「理学療法」とは、お子さんの場合、基本的動作・粗大運動（首がすわること、お座りをすること、はいはいすること、歩くこと）の獲得・発達促進を図るため運動をもちいて援助することをいいます。お子さんは、遊ぶ・楽しむという目的のために、座る・動くなどの手段を獲得していきます。そのため、理学療法においても遊びたい・楽しみたいという気持ちを引き出すことが大切です。座りたい、歩きたいという意欲を持ってもらうために、楽しく、生活に取り入れやすい遊びをとおして、運動機能がのびるように支援していきたいと考えています。

また、将来的に関節が変形したり硬くなる心配があるお子さんに対しては、ストレッチ等をもちいてこれらの予防・軽減に努めます。その他身体（関節や筋肉）に負担をかけてしまう姿勢や、動き方をするお子さんに対しては補助具の使用や、身体の使い方の改善など、負担の軽減を図る支援をします。

【通園事業・発達支援事業】運動療法を担当しています。



子どもの「遊び」と大人の関わり

「遊び」には、たくさんの要素があり、お子さんの成長に深くつながっています。

センターの職員はお子さんの成長につながる「遊び」を日々の活動に意識して取り入れています。

子どもは、

- ・自分の好きなことで遊ぶ
- ・大人や友達とやり取りして遊ぶ
- ・友達のやっていることに興味を持って見たり、まねする

*大人は、その楽しみ方にじっくり付き合います。

遊んでいる時のキーワード
楽しい・面白い・
気持ちいい

意欲

「もっとやってみたい！」

達成感

「やったあー！」
「できたー！」

人は
心地よい存在

大人は、子どものその時の気持ちを
代弁します。

代弁することで...

大人：“その気持ちを分かっているよ。”
子ども：“気持ちを分かってもらえた！”
“よかったあ~”

体も心も安心して
過ごせること



*この経験をたくさん積み重ねると、

子どもは、

“自分を受け止めてくれる人がいる”
“自分は愛されている存在なんだ”
という心地よさを、いっぱい感じられるよ
うになります。

大人は、こんなことを心がけます。

- ・子どもが伸び伸びと遊べる環境を設定する
- ・子どもの好きなこと・嫌いなこと・不安になることを理解して関わる
- ・遊びの中で、子どもが失敗感や恐怖を抱くことをできる限り少なくする

自信と意欲

「これもやってみたい！」

*その結果...

子どもは、安心して、活動・遊びを楽しめ、
新しいことにもチャレンジできるようになります。

『楽しい・面白い・気持ちいい』『体も心も安心』『人は心地よい存在』

この3つのポイントをたくさん感じて経験することで、子どもたちは、
“自己肯定感”(自分の気持ちが満たされること)を持ち、自信を積み重ねていきます。
これは、のちの集団生活・社会との交流への基盤になっていきます。



平成29年度 年間日程



通園事業（児童発達支援事業）			センター共通	
5月			16日 22日	就学相談説明会（終了） 療育見学会（終了）
6月	3日	春の親子遠足（終了）	12・22日	療育見学会（終了）
7月	22日	保護者参加	31日	保護者講習会（ヨーガ）
8月	4日 9日	夏祭り はみがき指導	7日 10日 22日	保護者講習会（ヨーガ） 子ども施設向け研修会 障害児保育説明会
9月	1～2日 8日	宿泊療育 長時間療育	13日 29日	通園事業説明会 小1ママのおしゃべり会
10月	13日	秋の遠足	28日	センターまつり
11月	11日	保護者参加	6・15日	療育見学会
12月	15日	子どものつどい	5日	市民講演会
1月	20日	保護者参加	15日	子ども施設向け研修
2月	4日	通園体験会		
3月	15日	卒園式	23日	保護者講習会

5月16日（火）に「就学に関する説明会」を行いました

教育相談所・指導室・調布特別支援学校・府中けやきの森学園の方々を講師にお迎えし、74組79名の保護者の方に参加していただきました。

当日出席できなかった方で資料が必要な方は、事務室までお声かけください。
就学に関するお悩み・相談がありましたら、利用している事業の担当者や相談担当にお気軽にご相談ください。